近畿大学泉州 高等学校
校長　堀川　義博

令和４年度　近畿大学泉州高等学校　学校評価

1　めざす学校像

本校の校訓である「誠実」「礼節」「友愛」の精神を育むとともに，近畿大学の教育の目的である，人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成することをめざす。

＊　育てたい生徒像：他人を思いやれる心を有し，社会に有為な人材と認められる生徒

＊　目標とする学校像：自主・自立の精神のもと教員，生徒がともに人間的に成長する場

このような観点から，あらゆる教育活動を通して主体的に学ぶ学校環境を作る。

2　中期的目標および実施項目

A　確かな学力の育成

近畿大学特別推薦入試制度の理念（リーダー養成，自校理解教育，確かな学力）を踏まえ，以下の項目について改善する。

ア　英語検定，漢字検定，数学検定，GTEC，TOEIC などの検定合格率および得点増を目的とする補習授業を導入し，学年ごとの一斉受験機会を設定する。上記項目に関しては，自己評価にて結果を分析し，次年度への目標設定とする。

イ　基礎学力アップの補習，国公立大学入試対策補習の導入により，生徒の実態に応じて学力を伸ばす態勢を作る。

ウ　理系クラスを少人数クラス展開とし，学力の向上をはかる。物理，生物，数学において能力別少人数クラスの設定を行う。

エ　図書館活動を活性化し，読書量の増加を目指す。

オ　放課後サテライト授業の受講希望者増加にともない，サテライト教室・自習室の整備・拡張を行い，学年ごとに受講・自習できる環境整備を行う。

カ　大学広報担当者による講演会，外部講師（英語，国語）による大学入試対策講座を実施する。

キ　大学入試および学力アップのための教員対象研修会を実施する。

B　進路希望の実現

ア　近畿大学および国公立大学志願者を増加させる。

イ　薬学部，歯学部，看護学部など医療系学部の受験に対応した選択授業科目を設定し，細やかな指導を行って合格へつなげる。

ウ　私立大学文系学部志望者へも数学，理科の教科指導を行い，基礎学力を高める。

エ　大学オープンキャンパスへの参加，授業（実験）体験の機会等を増やし，志望動機を高める。

C　リーダーシップ，人間力を高める取り組み

ア　生徒会活動，クラブ活動を生徒主体に運営させていく。

イ　体育祭，文化祭，入学式，卒業式などを生徒会主体の運営へ移行していく。

ウ　いじめアンケートなど生徒の意識に関するアンケートを実施することにより，クラス内弱者をなくす意識を涵養する。各学期に１度，年間３回のアンケート調査を実施する。

エ　AED 講習を高校２年生全員に受講させる。薬物乱用に関する講演会を全校生徒に行う。性に関する講演会を高校１年生，３年生対象に実施し，生命，生活に対して確かな知識と意識を涵養する。

D　グローバル化への対応

ア　コロナ禍で中断していた希望者対象の１年間留学，３ヶ月留学，２週間語学研修（アメリカ・オレゴン州）を令和５年度より再開する予定である。今後，さらに参加者が増加するように研修時期，研修後に欠席した通常授業の補完を考慮する。

イ　コロナ禍で中断していたハワイ修学旅行を令和５年度より再開し，ハワイ大学の英語講習を受講する予定である。

ウ　アの参加者および希望者に対して，近畿大学英語村特別プログラム受講を令和５年より再開する予定である。

エ　アメリカ・オレゴン州のルーズベルト校との交流（交換留学）を令和５年度より再開し，夏期には留学生の本校生徒家庭でのホームステイの受け入れ，本校生との各種交流を実施する予定である。

E　地域・保護者との連携，社会貢献について　※令和２年度以降，コロナ禍のため以下の行事の多くは実施できていないが，状況が許すようになれば再開予定である。

ア　文化祭を近隣住民へ開放し，バザーでの収益を被災地義捐金としている。

イ　税理士を招いての「税の講習会」の実施，２年生全員の「税の作文」の応募など，税務署の活動への協力を行っている。

ウ　保護者会向け講演会，授業参観を実施している。

エ　保護者，生徒向け一斉メールはほぼ全保護者・生徒が加入しているため，緊急時（災害など）の連絡を確実に取ることができる。また，一斉メール配信を学年ごとに設定変更したため，保護者が必要な連絡内容を十分に把握できるようになった。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析［令和５年１月実施分］	学校協議会からの意見
○保護者アンケート 【31 項目中「（よく）あてはまるの割合が 80%以上の項目（数値の高い順）】 ※前年度の 15 項目より 5 項目増 ①生徒は，全体として校則をよく守っていると思う。 95.3% ②学校の施設・設備は，丁寧に使われている。 93.3% ③学校では，生徒の個人情報がよく守られている。 93.3% ④学校の特色は，進路目標の実現である。 92.1% ⑤学校は，基本的な社会ルールを守る態度を育てようとしている。 89.8% ⑥先生は，問題が起こればすぐに対応してくれる。 89.4% ⑦子どもは，学校行事に積極的に参加している。 89.0% ⑧学習評価（定期考査，提出物等）は，適切である。 87.4% ⑨生徒指導において，家庭との連携ができている。 86.6% ⑩学校の教育方針が保護者に適切に伝えられている。 86.2% ⑪保護者として，この学校に通わせて満足している。 84.3% ⑫授業に先生の熱意が感じられる。 84.3% ⑬先生は，生徒の悩みや相談を聞いて，すぐに対応してくれる。 83.5% ⑭学校は，生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。 81.9% ⑮学校の施設設備は，学習環境の面でほぼ満足できる。 81.1% ⑯学校で，子どもの進路について先生が丁寧に指導してくれる。 81.1% ⑰子どもの心身の健康について，気軽に先生に相談できる。 80.7% ⑱学校は，家庭への連絡や意思疎通を，きめ細かく行っている。 80.7% ⑲学校は，生徒の進路に関する情報を適切に提供している。 80.3% ⑳学校は，校内での事故防止に施設設備面で配慮している。 80.3% 【31 項目中「（よく）あてはまるの割合が 70%未満の項目（数値の低い順）】 ※前年度の７項目より１項目減 ①生徒会活動・クラブ活動は活発である。 52.4% ②さまざまな学校行事があり，活発である。 54.2% ③地震・火災に備え，生徒に避難マニュアルが周知されている。 57.9% ④学校は，保護者や地域の人たちと話す機会を多く持っている。 60.6% ⑤子どもは，学校の雰囲気がよく，毎日が楽しいと言っている。 63.4% ⑥学校から出される課題や宿題は，適切な量と内容である。 65.7% 【新型コロナウイルス対策に関する項目】 ① 校内や学校行事等での感染対策（除菌，マスク着用，三密回避）は適切である。92.1% ② オンライン教育（class room での連絡，授業配信，e ラーニング英語学習，モバイルサテライト教室など）に関する対応は適切である。 78.0% ③ 子どもは，学校が提供するオンライン教育を活用し，力をつけている。63.8% ［分析］ 進路目標の実現という学校の特色への理解やそのための取り組み，さらには規範意識を育てる生徒指導への理解もそれなりに得られていると言える。施設・設備面でも決して新しいものばかりではないが，使用や安全面での配慮については，一定の評価を得ている。授業に関する評価も上昇傾向にある。また，令和２年度から実施している新型コロナ対策に関する質問では，感染対策やオンライン教育の実施に対する評価は高いが，それが学力の向上につながっていると考える保護者は少なく，改善の必要がある。 ○教職員アンケート（主な項目の結果） ①学校の教育方針・目標を教職員，学校関係者が理解している。 81.1% ②教員間教科間の相互理解がなされ，信頼関係に基づいて，教育活動が行われている。 56.8% ③高大連携協定を結んだ大学と連携体制が整い，指導が行われている。78.4% ④生徒は，全体として校則をよく守っていると思う。 100.0% ⑤いじめが生じた際に学校全体で組織的に対処する体制がある。 91.9% ⑥学校では，生徒の個人情報および教職員のプライバシーがよく守られている。 78.4% ⑦生徒は，学校行事に積極的に参加している。 91.9% ⑧生徒会活動を通じて，生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。 64.9% ⑨事故・事件・災害時に対処する役割分担が明確にされている。 67.6% ⑩積極的に募集活動が行われ，定員を充足する努力がされている。 83.8% ⑪オンライン教育（class room での連絡，授業配信，e ラーニング英語学習，モバイルサテライト教室など）に関する対応は適切である。 97.3% ［分析］ 生徒の校則遵守に関する項目は，保護者・教職員とも 95%を越え，生徒の規範意識の高まりが見られる。学校行事等に関する生徒の関わりについては，教職員と保護者で認識の隔たりがあるのが実情なので，これを解消するための努力が必要である。募集活動については，努力面で評価されているものの定員を充足できていない状況であることから，この状況の改善に努力をしていきたい。	○生徒・保護者 １．生徒間のトラブルを深刻なものとしないように，今後とも生徒間の些細な動きから変化を把握できるよう，注意深く指導していく必要がある。 ２．生徒会ボランティアスタッフの活動が活発化し，一定人数（約 60 名）が活動している点は評価できる。 ３．クラブ活動が近年徐々に活性化しており，文化部への加入者増が顕著である。PTA からも文化部支援特別予算（年間 10 万円程度）を予算化し，生徒数，クラブ数の増加にともない，増額を行う。 ４．保護者の意識傾向として，子どもが大学進学のために学習することを期待する傾向が大きくなっているほか，留学等についての関心も高まっている。そのような中で進路保障や，グローバル化への対応プログラムが再開されていることは評価できる。 ５．令和４年度は，多くの行事が復活し，保護者対象の研修会等の学校行事に保護者が積極的に参加していることは評価できる。 ６．年２回の保護者，生徒，クラス担任による三者懇談会など，保護者の意見を聞くことが出来る機会は用意されているが，進路説明会などにおいても内容をさらに充実させるとともに，保護者からの意見を聞ける機会を積極的に設けるべきである。 ○教職員 １．労働管理 ・休日学校閉鎖を実施している（強化クラブの練習は実施）。 ・平日 19 時，土曜日 17 時の完全施錠が行われている。 ・火曜，木曜，土曜の放課後補習は学年ごとに実施教科，担当教員を決めて行っており，補習手当が支払われている。 ・強化クラブである野球部や男子バレー部の指導者については平日に振替休日１日を取得できるように時間割等の配慮を行っている。 以上のことは評価できる。 ２．教職員研修 大学教員によるカウンセリング研修，「予備校講師による校内授業」の参観，教職員向け研修会が実施されていることは評価できる。ただ，研修内容を教職員が消化しきれずに業務過多に陥ることがないよう，研修会を年間計画に基づいて定期的かつ効率的に実施すべきである。 ３．財務状況および校舎改修工事など 令和３～５年度の３年間，入学生の定員確保ができていない状況であり，安定した財務状況を確保するためには，生徒募集活動の充実と結果が求められる。その中でも，令和５年度には未実施部分の耐震補強工事を行うことが決定されており，教職員の理解を求める努力を行うべきである。

3　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	（1） 英語検定，漢字検定，数学検定，GTEC，TOEIC などの検定合格率および得点増を目的とする補習授業の導入および学年ごとの一斉受験機会を設定する。	（1） 各種検定の実施計画･内容 3 検定の実施時期 （学年統一実施） ＊統一実施回以外は希望者受験 ①英語検定 高校 1 年次 9 月 高校 1 年次 2 月 高校 2 年次 1 月 ②漢字検定 高校 1 年次 6 月 高校 2 年次 10 月 ③数学検定 高校 1 年次 2 月 高校 2 年次 2 月 （2） 基礎学力定着度の指標として総合評価を行う。 （英語検定，漢字検定，数学検定の取得級を得点化し合計する。）	（1） 令和 3 年度入学生の高校 2 年終了時点での取得級と割合 （令和 4 年度末集計，在籍者数 133 名） （　　）内は令和 3 年度→令和 4 年度の合格割合の変化を示す。 ①英語検定 目標　2 級取得 35% 準 1 級　　0 名（ 0 名 → 0 名 ） 2 級　　9 名（8.5%→6.8%） 準 2 級　45 名（52.3%→57.1%） 3 級　　37 名（34.0%→27.8%） ②漢字検定 目標　準 2 級以上 50% 2 級　　6 名（ 8.5%→4.5%） 準 2 級 45 名（36.6%→33.8%） 3 級　　70 名（43.8%→52.6%） ③数学検定 目標　準 2 級以上 50% 準 1 級　　0 名（　0 %→　0 %） 2 級　　27 名（ 4.7%→20.3%） 準 2 級　40 名（33.2%→30.0%） （2） 平成 29 年度より 2 年終了時点での漢字検定，英語検定，数学検定の級毎の合格率および，3 検定の総合評価を分析し，対策を実施している。総合評価については，各検定合格級を以下のように得点化している。 英語検定 2 級；6 点 準 2 級；4 点 3 級；1 点 漢字検定 2 級；6 点 準 2 級；4 点 3 級；1 点 数学検定 準 1 級；8 点 2 級；5 点 準 2 級；2 点 総合評価（得点合計） 目標；総合得点 6 点以上の割合 45% 結果；74 名（53.6%→55.6%） 12 点以上　20 名（ 9.8%→15.0%） 9 点～11 点　20 名（14.5%→15.0%） 6 点～8 点　34 名（29.4%→25.6%） 3 点～5 点　33 名（28.9%→24.8%） 0 点～2 点　26 名（17.4%→19.5%）	（1） ①英語検定について　（今後も努力継続が必要） 高校 2 年終了時までの英語検定 2 級合格率は 7%程度で，前年度よりも低下し，目標である 35%からは大きな開きがある。しかし，準２級以上で見ると約 64%と前年を上回り，毎年上昇が見られる。したがって今後は準２級を早い時期に合格させ，その中から１人でも多くの２級合格者を出すための努力が必要である。また，英検一次試験対策の放課後補習，２次試験対策の個別指導の一層の充実をはかるだけでなく，１次試験での不合格者にリスニングでの低得点者が多いことから，授業その他の機会においてリスニング指導の機会を増やす必要がある。また，学年統一受験日以外の受験日でも積極的に受験するように指導し，受験機会を増やすことも必要である。 ②漢字検定について　（今後も努力継続が必要） ２級・準 2 級については，合格者の割合が低下した。合格率を上昇させるためには，部首や対義語・類義語など，単に書き取りや読みにとどまらない対策を年間計画に基づいて実施する必要がある。 ③数学検定について　（目標を達成している） ２級以上の合格者の割合が大幅に増加し、準 2 級以上の合格率が 50%を超えている。今後も理系選択者を増やすように努めたい。授業の解説の中で数学検定の出題傾向に触れたり，検定の問題を朝の学習や掲示物等で扱う機会を増やすなどの対策は継続していきたい。また，準 1 級については試験範囲が数学Ⅲ中心であるため高校 2 年終了時で受験させることは難しいが，2 級，準 2 級については，さらなる合格率向上を目指すべきである。 （2） 総合評価の結果は，年々上昇しており，総合得点 6 点以上の生徒割合 45%という目標を３年連続で達成した。今後も各検定の自己評価を踏まえてそれぞれの合格率を上げるとともに，生徒各個人の総合得点を常に把握させ，対策へのモチベーションにするとともに，統一受験日以外の受験を勧める際の材料としていく必要がある。
2 リーダーシップ，人間力を高める取り組み	（1） 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の活性化 （2） 地域との関わりおよび貢献活動を積極的に行う	（1） ①入学式，卒業式，体育祭，文化祭，外国人留学生の歓送迎行事，オープンスクールなど各種行事における運営 ②文化祭でバザーを実施し，収益を被災地義援金とする活動 ③歳末募金活動 （2） ①文化祭の近隣住民の方への開放 ②税務署との活動に参加	（1） 目標；活動人数，活動数の増加 〔結果〕 新型コロナウイルスの影響で，外国人留学生の来日などは実施できなかったが，オープンスクールでは，生徒会制作動画による学校紹介，体験授業や交流広場での生徒会や生徒スタッフの活動などの機会を設けることができた。また，本校公式 YouTube チャンネルや Instagram などでも生徒会の活躍が見られた。歳末募金活動については実施することができた。 （2） 〔結果〕 ①については，コロナ禍で中断していたが，再開させることができた。 ②の「税の作文」については，税務署を通じて税理士の方を招いて講演をしていただき，２学年全員が「税の作文」に応募し，１名が岸和田税務署長賞を，１名が岸和田・貝塚地区租税教室推進協議会会長賞を受賞した。	（1） 令和元年度より各種行事における生徒会および生徒スタッフの活動を企画・立案を含めた主体的なものに転換している。令和４年度については，本格的な体育祭や文化祭、マラソン大会などの活動を再開することができた。今後も生徒の主体性重視という方針ののもとで学校行事を運営していきたい。また，それらの活動を，生徒会担当教員だけでなく，学校全体で支援する体制を整えていく必要がある。 （2） 地域，地元税務署および警察署との協力関係は良好であり，コロナ禍以前に行われていた各行事での協力関係を再開していくべきである。近隣は少子化，高年齢化が進み老人が住民の大半を占めるようになり，本校生徒のボランティア参加なくしては成り立たない行事も多い状況である。引き続き近隣地域への貢献活動を行い，今後の高齢化社会での貢献を生徒が学習する機会とするべきである。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 中長期的計画及び目標	（1） グローバル化への対応と取組	（1） ア　長期留学 イ　2週間語学研修 ウ　ハワイ修学旅行	（1） 目標；海外研修行事への参加者数を増加させる。 〔結果〕 左記ア～ウについては，コロナ禍で実施できなかったが，令和５年度より再開予定である。	（1） ア・イ　令和２～４年度は海外研修を実施できなかったものの，長期留学や語学研修のニーズは再び増加に転じると思われる。ただ，円安や米国の物価上昇などの影響で，費用面での問題が懸念される。逆に米国から生徒を招いての国際交流などは実施しやすくなるので，それらを含め，状況に応じたグローバル化への対応を検討すべきである。 ウ　ハワイ修学旅行については，感染症流行だけでなく，為替相場変動によるコスト高等も踏まえ，対費用効果の高い研修内容を，行き先も含めて検討すべきである。
	（2） 健全な経営状況の維持	（2） ア　生徒募集における定員確保 イ　耐震工事計画	（2） ア　目標；経営の健全化 令和３年度在籍数；663名 令和４年度在籍者数；511名 152名減少（昨年度減少数102名） イ　耐震工事実施 平成28年度：体育館実施 平成30年度：Ａ棟実施 令和 5 年度：Ｂ棟・Ｃ棟・渡廊下棟実施予定	（2） ア　令和５年度入試では，コロナ禍以前に近い形で入試広報イベントが実施でき，参加者は前年度より相当数増加したが，入学予定者は令和４年度の139名に対し，令和５年度は24名増の163名にとどまった。生徒募集活動等の改善点を検討した上で，今後一層の努力が求められる。 イ　耐震工事については，平成28年度に体育館、平成30年度にＡ棟について実施し，令和５年度にＢ棟・Ｃ棟・渡廊下棟について実施する予定である。

本年度の取組内容及び自己評価（上記）への**学校協議会からの意見**

１ 確かな学力の育成について

ア　英語検定合格率を伸ばすことに尽力すべきである。高校２年末での英語検定２級・準２級の合格率が上昇したもののまだ目標には届いておらず，今後も目標を下げることなく，２級合格率を20%～30%へ伸ばし，最終的には35%を超えるよう平常授業およびそれとは別の対策の両面で改善をはかる必要がある。また，漢字検定，数学検定等の得点率を上げることも重要である。

イ　近畿大学および国公立大学志願者を増加させるよう学力を高める方策を取っていることは評価できる。特に，放課後補習の充実，予備校映像授業が受講できるよう教室整備を行っていること，学習合宿に予備校講師・大学教員を招聘して授業を行っていることは評価できる。

本校としては難関国立大学（東京大学など）を目指すのではなく，より多くの生徒を近畿大学のほか，大阪公立大，大阪教育大，和歌山大など地元国公立大へ進学させることを主眼とした態勢を構築することが重要である。

近畿大学進学者へのケアとして激励会（一部コロナ禍で停止中），進学後の状況調査および指導を実施している。これは，留年者や中途退学者減少に効果があり，今後も継続して行うべきである。

２　リーダーシップ，人間力を高める取り組みについて

ア　生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の幅が広がっていることは評価できる。今後，各種行事の運営を生徒会に委ね，教員指導のもと生徒の主体性や創造力，表現力を伸ばしていくべきである。

イ　コロナ禍以前は芸術鑑賞会への招待，清掃活動，祭礼・マラソン大会への参加など，地域への貢献活動が多岐にわたっていて，近隣住民の評判が良好であった。コロナ禍も一定の落ち着きを見せているので，今後できるだけ活動を再開していく必要がある。

ウ　リーダー養成については，大学で行われるべきこととの差異も考察しながら，高校段階で行える内容をグローバルな視点も意識しつつ，積極的に取り組んでいくべきである。

エ　人間力の涵養については，本校生徒には入学後短期間で礼儀，挨拶の習慣が定着している点が評価できる。今後も日常の教育活動を通して，自主・自立の精神，人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成するための活動内容を精査すべきである。

３　中長期的計画及び目標について

ア　グローバル化への対応については，ハワイでの修学旅行以外に，長短３種類の海外留学（語学研修）プログラムが用意されていることは評価できる。感染症の流行が収まったのちは，留学，研修を再開し，成果の検証にも重点を置きながら内容をさらに充実させることと，欠席期間の授業内容についての補完にも配慮すべきである。

イ　令和３年度以降，入学者数が減少している。この傾向が続くことのないように，教育活動，生徒募集活動の充実を図るべきである。施設整備については，生徒の安全・安心にかかわる部分を最優先で改善していきながら，全体については中長期的視野に立ってしっかりと計画的に行うべきである。

４ その他

ア　自己評価アンケートでの「要改善」項目をなくすよう努力すべきである。保護者への連絡や教員間の情報共有をより密にすることが重要であると思われる。

イ　ホームページについては，すべての行事について最新の内容がアップされており，学校内の様子が良くわかる点は評価できる。

学校協議会学外委員　中学校校長１名、地域連合自治会長１名，ＰＴＡ会長１名，教育後援会会長１名
学校協議会学内委員　校長，事務長，教頭，教務部長

以　上